

平成 28 年度 「中学生チャレンジテスト」における 放出中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成 28 年 6 月 23 日（木）に、第 3 学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第 3 学年
- ・ 放出中学校では、第 3 学年 147 名

3 調査内容

- ① 国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成28年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 放出中学校

【 第 3 学 年 】

生徒数(人) 147

平均点 (点)

平均無解答率 (%)

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	57.8	58.1	45.7	38.8	56.3
大阪市	58.8	52.7	47.1	37.6	56.8
大阪府	59.6	52.2	48.1	38.6	57.9

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	12.8	6.6	9.2	10.1	6.8
大阪市	10.7	6.0	8.6	9.6	5.5
大阪府	10.1	6.4	8.3	9.7	5.4

結果の概要

社会が5.4ポイント、理科が1.2ポイントとそれぞれ大阪市平均を上回っているものの、国語は1.0ポイント、数学は1.4ポイント、英語が0.5ポイントそれぞれ下回っている。

無解答率においては、すべての教科で大阪市平均より高い割合となってしまうている。
 今後は大阪市平均との比較で良好といえる状態を維持すること、全国平均との比較における安定したポイントアップにつながる取り組みを進めなければならない。

成果と今後取り組むべき課題

本校は基礎学力の定着と向上を目指して、日々の授業の工夫ならびに基礎的・基本的事項の繰り返しの徹底を図ってきた。

今後も引き続き本校としては以下の事項を取り組み、府平均との比較における安定したポイントアップを目指す。

・個に応じた授業の充実や学力向上に向けた習熟度別少人数授業の指導法・指導形態の研究と実践に取り組む。

担当者での協議会を持たせ、全学年での習熟度別少人数授業等の内容を充実させる。

・日常の授業から教材の見せ方を工夫させ、高い利便性・日常化しやすいタブレットなどのICT活用をきっかけとした授業改善により、学習効果をあげる。

・学習教材データの充実活用を浸透させ、教員の負担軽減を進める。また、教員が生徒や保護者と向き合う時間確保につなげることで、一層保護者連携を深める。

・学校元気アップの定例学習会、図書館開放など学習活動支援への積極的参加を推進する。

・C-NETを活用し、言語力や表現力の観点を積極的に盛り込む。

教科指導のみにとどまらず、クラブ指導・校内行事等への参加をすすめ、異文化体験・協働学習や個別学習の充実を図る。

・主任層・メンターを中心にした細やかな日常的サポート・指導・相談体制の確立に努め、若手教員育成のための校内体制充実を図る。相互授業参観週間や校内研究授業を通し、若手教員の授業力向上への意識強化を進める。

・英語における「語彙力の充実」「表現力の充実」を図るためにTOEICBridge(中学生に適したTOEICテスト)プログラムを英語科中心にして全学年で取り組み、年1回のテストを校内で受験させる。

・3カ年を通じた「キャリア教育」の充実により将来の夢や希望を持たせることにより学習意欲の向上を図る。

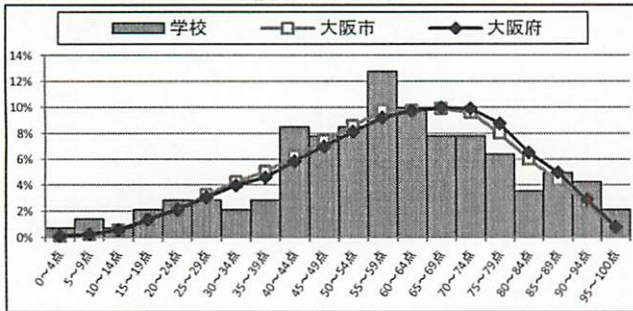
道徳教育の充実や支え合える集団づくり、きめ細かな教育相談体制の確立により学力向上の前提としての規範意識の向上、授業規律の確立をめざす。

部活動を充実させることにより、自己肯定感を向上させ何事にも前向きな姿勢をもつ生徒集団をつくる。

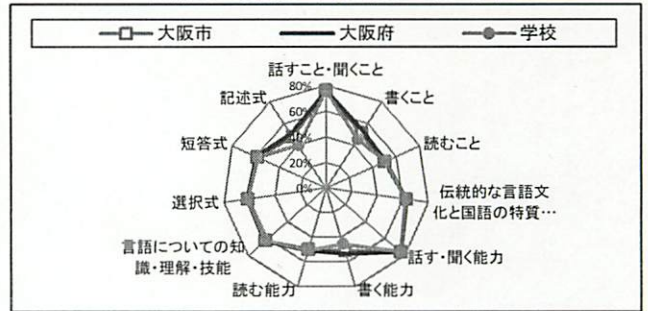
【第3学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

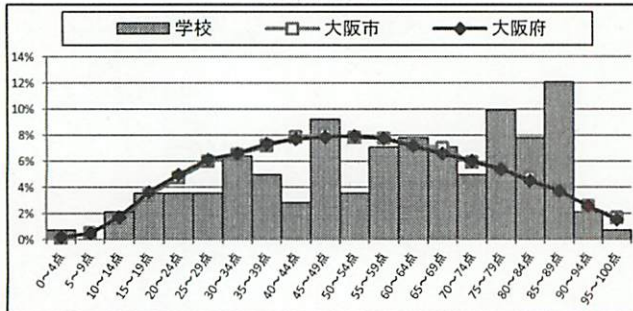


【領域・観点・問題別の分布】

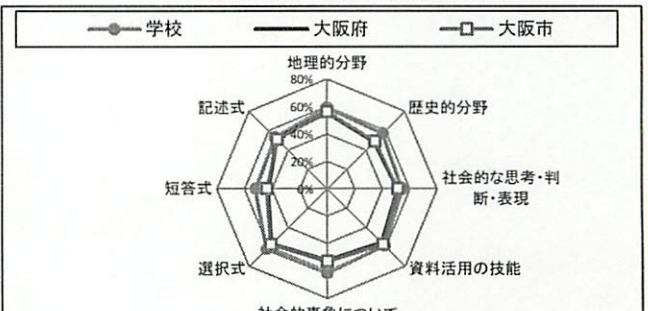


【社会】

【得点分布】

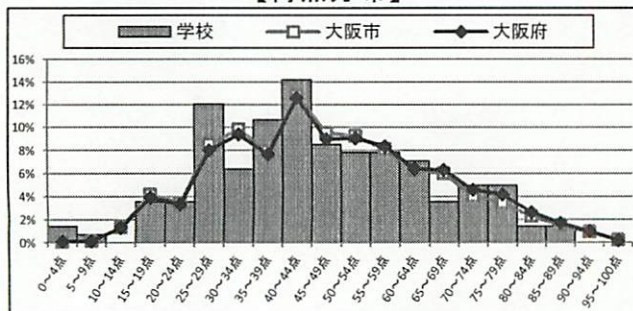


【領域・観点・問題別の分布】

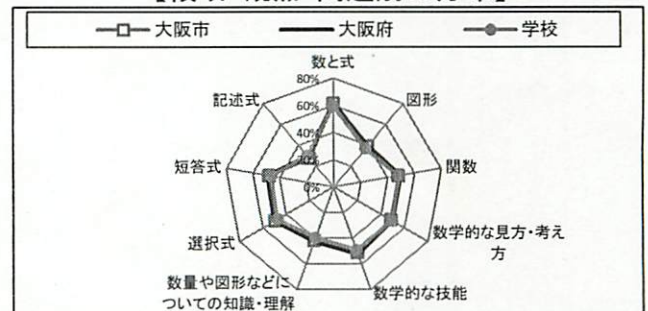


【数学】

【得点分布】

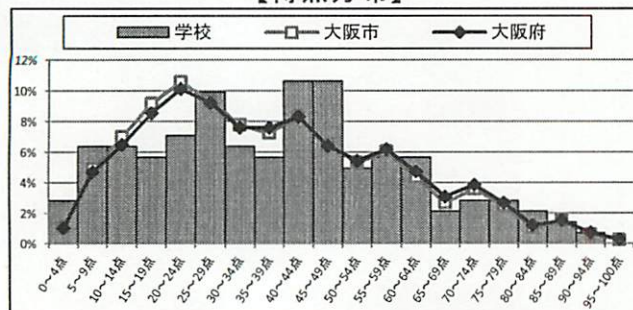


【領域・観点・問題別の分布】



【理科】

【得点分布】

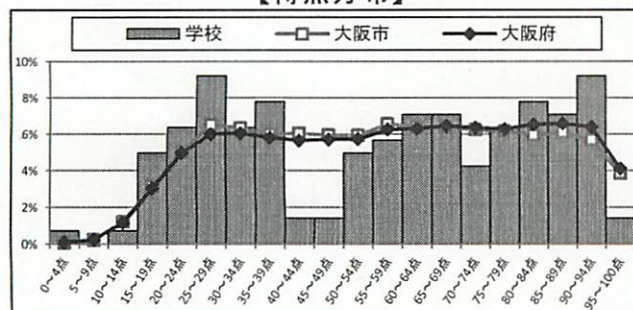


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

